

文化庁委託「日本語教育人材の研修プログラム普及事業 日本語教師【中堅】」

公益財団法人日本語教育学会

「日本語教育学会の人材，知財，ネットワークを活かした

中堅日本語教師のための研修プログラム（略称：JCN 研修）：中堅研修コース」

## 募 集 要 項

### I. 研修について

#### 1. 本研修の趣旨・目的

公益社団法人日本語教育学会は、2022 年度文化庁事業「日本語教育人材の研修プログラム普及事業」を受託し、中堅日本語教師のための研修（以下、中堅研修コース）、及び研修担当講師の育成研修（以下、講師育成コース）を実施いたします。

「中堅研修コース」では、文化庁（2019）で示された日本語教育人材の養成・研修における「日本語教師【中堅】に求められる資質・能力」および「研修における教育内容」を踏まえた内容を提供します。その目的は、これまでに自らが行ってきた日本語教育実践を振り返り、俯瞰し、それらを理論的・メタ的に位置づける活動を通じて、これからの日本語教育の如何なる多様化にも対応し、日本語学習環境を整えることができる日本語教師【中堅】を育成することです。

「講師育成コース」では、文化庁（2019）で示された日本語教育人材の養成・研修における「日本語教育コーディネーターに求められる資質・能力」および「研修における教育内容」を踏まえた内容を提供します。その目的は、中堅日本語教師の研修を企画し、講師として研修を運営・実施できる人材を育成することです。

これら2つのコースは、日本語教育学会の様々な人材（Jinzai）、知財（Chizai）、ネットワーク（Network）を活用してオンラインで実施します。以下では、【中堅研修コース】の募集要項を説明します。

### 【中堅研修コース】

#### 2. 研修実施期間

令和4（2022）年8月1日（月）～令和5（2023）年1月15日（日）

#### 3. 実施方法

##### 3. 1. 遠隔による研修の実施

本研修は、全てオンラインで実施します。「同期型研修（Web 会議システムによるスクリーニング）」と「非同期型研修（講義動画の視聴と LMS の利用）」を組み合わせた複合型の学習形態です。Web

会議システムには Zoom を用います。LMS (Learning Management System : 学習管理システム) には Slack を用います。

### 3. 2. 研修の特徴

#### (1) 研修テーマ

「つなげる・つながることを通じた実践の改善と教師の成長」を研修テーマとし、研修生が各現場から見出した具体的な課題を以下のような視点から整理、検討します。

- (1) 日本の在留外国人施策・制度
- (2) 関係府省庁による日本語教育施策
- (3) 日本語の試験
- (4) 国内外の多様な日本語教育事情
- (5) 学習者の社会参加
- (6) 異文化間トランス
- (7) 言語学習・教育の情意的側面
- (8) 日本語教育プログラム及び教育環境デザイン
- (9) 目的・対象別日本語教育法
- (10) 評価法
- (11) 異領域との協働
- (12) 日本語教育プログラムにおける ICT の活用・著作権
- (13) マネージメント能力
- (14) 事務・管理能力
- (15) 人材育成能力
- (16) ネットワーキング力
- (17) その他

#### (2) チームで研修活動を行う

本研修では、他者とのつながりと協働を重視します。そのために、研修生は応募時に提出した自らの課題を一人で考えるとともに、課題に基づいていくつかのチームに分かれ、チームとしても研修活動を行います。一人で考え、解決するのではなく、組織や専門分野を超えた様々なリソースを活用し、つながることの重要性とダイナミズムを経験します。

#### (3) 各自の課題を自ら設定し、自ら解決する

各自の課題や解決方法を誰かに教えてもらうのではなく、自ら課題を設定し、チームで解決にあたります。そのために、現場を分析して理解を深め、他者とのつながりの中で解決の糸口を自ら発見し課題に取り組みます。その過程を通じて、日本語教師としての成長と専門性のさらなる充実を目指します。

#### (4) 日本語教育学会の資源を活用する

研修生は、各チームの課題を解決するために、日本語教育学会の様々な人材（Jinzai）、知財（Chizai）、ネットワーク（Network）を活用して必要な情報を収集、発信、共有します。

#### (5) 6期に分けて実施

2022年8月から2023年1月までの約6ヶ月の研修期間を、6期に区分して実施します。各期は、「講義」と「演習」から構成され、それぞれにZoomによるスクーリング（同期型研修）が行われます。さらに、研修全体を通してSlackを利用した課題の遂行と意見交換が並行して行われます。その他、1月に修了レポートの提出が求められます。

#### (6) Slackを利用した非同期型研修

全研修期間を通じ、Slackを利用して、チームでの意見交換、情報収集、成果報告などを行います（非同期型研修）。チームにはそれぞれ研修担当の講師とメンターが付き添い、伴走します。必要に応じて文献や参考資料などを紹介し、意見交換を行います。研修担当者もリソースの一つです。どのように活かして課題解決につなげるか、人的リソースの有効的な活用を体験します。

Slackを利用した非同期型研修では、具体的には、講義と演習の合間に次のことを行います。

- ① 各種課題の提出
- ② チームによる進捗状況報告
- ③ 課題解決方法の検討と決定
- ④ 改善案の検討
- ⑤ 成果発表会に関する協力・連絡
- ⑥ その他、個別のネットワーキング

#### (7) 提出物

全ての研修生は、研修期間を通じて以下の成果物を提出しなければなりません。

- ① 「講義の課題」（講義動画に関する理解の確認と考察を報告：個人で提出）
- ② 「演習の課題」（個人やチームでの課題解決の進捗報告：個人で提出）
- ③ 「振り返りシート」（スクーリングの振り返り：個人で提出）
- ④ 「研修成果のまとめ」（チームでの課題解決の成果報告：チームで提出）
- ⑤ 「修了レポート」（研修終了時の各自の学びの総括：個人で提出）
- ⑥ 「自己評価票」（中堅の資質・能力や研修に関する評価：個人で提出）

## 4. 実施内容

### 4. 1. 研修の進め方

#### (1) オリエンテーション

ガイダンス動画の事前視聴と Zoom による事前説明会で構成します。

**(2) 講義・演習**

各期は原則として講義と演習の組み合わせで構成します。

① 講義 (4 単位) : 講義動画の視聴 (1 単位) + 課題の遂行 (1 単位) + スクーリング (2 単位)

- ・ 講義の非同期型研修では、動画教材による講義を各自で視聴します。
- ・ 講義視聴後、スクーリングの講師が指定する課題を遂行します。
- ・ 課題提出後、Zoom によるスクーリングで課題の振り返りや発展的学習を行います。

② 演習 (4 単位) : 課題の遂行 (1 単位) + スクーリング (2 単位) + 課題の遂行 (1 単位)

- ・ スクーリングの前に担当講師が指定する事前課題を遂行します。
- ・ Zoom によるスクーリングで、複数のチーム間 (班) で共有や議論などを行い、自身の研修課題の解決を図ります。
- ・ スクーリングの議論を踏まえてチーム内での振り返りや事後課題を遂行します。

(1 期は講義動画の視聴 1 単位 + スクーリング 3 単位の計 4 単位、6 期は成果発表会への参加によって 4 単位となります。)

＜中堅研修コースのスケジュール (めやす)＞

(40 単位 : 講義 20 単位 + 演習 20 単位, 1 単位 = 45 分)

期	1 期 (4 単位)	2 期 (8 単位)	3 期 (8 単位)	4 期 (8 単位)	5 期 (8 単位)	6 期 (4 単位)
時期	8 月前半	8 月後半	9 月	10 月	11 月	12~1 月
内容	講義 1	講義 2 演習 1	講義 3 演習 2	講義 4 演習 3	講義 5 演習 4	成果発表会 (演習 5)
提出物	1) 振り返りシート 2) 自己評価票	1) 講義・演習の課題 2) 振り返りシート	1) 講義・演習の課題 2) 振り返りシート	1) 講義・演習の課題 2) 振り返りシート 3) 自己評価票	1) 講義・演習の課題 2) 振り返りシート	1) 研修成果のまとめ 2) 修了レポート 3) 自己評価票

**4. 2. スケジュールおよび提出物**

基本的に以下の全てに参加すること、全ての提出物を期限内に提出することが求められます。

日程	スクーリング	内容

7月30日(土) 16:00-17:30	事前質問会(任意参加)	
8月6日(土) 13:15-15:45	スクーリング1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義に関する意見交換</li> <li>・各自の課題に関する意見交換</li> </ul>
8月27日(土) 13:00-16:30	スクーリング2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義に関する意見交換</li> <li>・各自の課題に関する意見交換</li> </ul>
9月24日(土) 13:00-16:30	スクーリング3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義に関する意見交換</li> <li>・各自の課題に関する意見交換</li> </ul>
10月15日(土) 13:00-16:30	スクーリング4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義に関する意見交換</li> <li>・各自の課題に関する意見交換</li> </ul>
11月19日(土) 13:00-16:30	スクーリング5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義に関する意見交換</li> <li>・各自の課題に関する意見交換</li> </ul>
12月25日(日) 13:00-16:30	成果発表会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各チームの課題達成状況の報告</li> </ul>
<p>※提出物(期限)</p> <p>【講義・演習の課題(スクーリングの1週間前までに提出)】          (①8/20, ②9/17, ③10/8, ④11/12, ⑤12/18)</p> <p>【振り返りシート(スクーリング終了ごとに提出)】          (①8/14, ②9/4, ③10/2, ④10/23, ⑤11/27)</p> <p>【研修成果まとめ(チームでの取り組み内容をチームごとに提出)】(1/7)</p> <p>【修了レポート(研修での学びを各自まとめて提出)】(1/14)</p> <p>【自己評価票(研修の開始時・中間・終了時)】(①8/14, ②10/23, ③1/14)</p>		

#### 4. 2. 講義動画の研修内容

	科目	内容(項目)	動画本数
事前	研修について(1)~(2)	① コースガイダンス ② 研究倫理と著作権	2
講義1	日本語教育人材の育成/日本語教育における中堅(1)~(3)	①日本語教育人材について ②日本語教育人材の育成 ③日本語教育における「中堅」	3
講義2	日本語教師と「熟達」(1)~(3)	日本語教師と「熟達」	3
講義3	「実践を記述する」ということ(1)~(3)	①「実践」を観察する ②「実践」を記述する ③「実践」を評価する	3
講義4	課題解決のアプローチ(1)~(3)	課題を解決する	3

講義 5	「実践」を振り返る／ 異なる実践をつなげる・つながる	実践を振り返る	3
------	-------------------------------	---------	---

## 5. 担当講師

〈講義担当講師(講義動画)〉

石黒広昭(立教大学)，黒崎誠(ラボ日本語教育研修所)，小林ミナ(早稲田大学)，西原鈴子(特定非営利活動法人日本語教育研究所)，横溝紳一郎(西南学院大学)，義永美央子(大阪大学)

〈中堅研修コース担当〉

小河原義朗(東北大学)，御館久里恵(鳥取大学)，金子史朗(友国際文化学院)，北出慶子(立命館大学)，久保田美子(早稲田大学)，黒崎誠(ラボ日本語教育研修所)，小林ミナ(早稲田大学)，嶋ちはる(国際教養大学)，嶋津百代(関西大学)，中島祥子(鹿児島大学)，永田良太(広島大学)，平山允子(日本学生支援機構東京日本語教育センター)，星摩美(福井ランゲージアカデミー)，安原凜(環太平洋大学)，柳田直美(一橋大学)，吉川達(佐賀大学)，義永美央子(大阪大学)

## II. 受講者の募集について

### 1. 募集人数

40名程度

### 2. 応募資格と応募条件

#### (1) 応募資格

中堅日本語教師として十分な経験を有する者(目安として3年以上の日本語教育歴がある者)。

#### (2) 応募条件

次の4つを全て満たすこと。

① Zoomによるスクーリングに出席できること。

基本的にガイダンス動画の事前視聴および6回のスクーリング(発表会を含む)の全てに参加すること。

② 全研修期間を通じて、Slackによる意見交換、情報収集、成果報告などを頻繁に行う。Slackでのやりとりに積極的に参加し、意見交換などを行うこと。

③ Zoom(同期型研修で使用)、Slack(非同期型研修で使用)、Vimeo(講義動画視聴)、Googleフォーム(自己評価票の提出)の利用環境を整えられること。

④ 母語、国籍は問わないが、日本語でのグループ活動、ディスカッション等の参加に支障がない程度の日本語力を有すること。

### 3. 修了判定

80%以上の出席率，80%以上の課題達成率の両方を満たした場合に修了となります。修了判定の結果通知，および，修了証の送付は2月下旬を予定しています。

### 4. 応募方法

#### (1) 参加申込

以下の URL にアクセスし，必要事項を記入してください。締切日までに複数の応募申請があった場合は，最新の日付のものを有効とします。

[https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSfOUYhedu1Na6K0fwD5DJjwPAZHeVaf-oU99AKLUQbA09TaZg/viewform?usp=sf\\_link](https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSfOUYhedu1Na6K0fwD5DJjwPAZHeVaf-oU99AKLUQbA09TaZg/viewform?usp=sf_link)

※ブラウザ上でURLにアクセスできない場合は，本PDFファイルをダウンロードしたうえでアクセス頂く必要がございます。

#### (2) 事前課題

この研修で取り組みたい，ご自身の日々の教育活動・教育実践から生まれた課題について，以下の質問に答える形で PDF ファイルを作成し，上記の URL からアップロードしてください（申込に関する情報入力完了後にアップロードが可能になります）。ファイル名は「JCN 中堅事前課題\_（お名前）」としてください（例：「JCN 中堅事前課題\_学会太郎」）。

研修参加が認められた場合，ここに書かれた課題に基づいてチーム編成を行います。また，ここに書かれた課題の検討・解決に取り組むことが求められます。

- 1) 取り組みたい課題は，あなたのこれまでの教育活動・教育実践とどのように関わっていますか。300～400 字程度で説明してください。
- 2) その課題を解決するために，これまでどのようなことに取り組みましたか。200 字程度で説明してください。
- 3) その課題を解決するために，何が必要だと考えますか。200 字程度で説明してください。
- 4) その課題を解決するために，この研修に期待することは何ですか。200 字程度で説明してください。

応募締切：2022 年 5 月 31 日（火）23：59（J S T）

### 5. 選考

提出された書類を審査し，2022 年 6 月 21 日（火）までに電子メールにて受講の可否を通知します。選考料は無料です。

### 6. 受講料

受講料は、一人 10,000 円（教材費を含む）です。

受講が決定しましたらメールでご連絡しますので、指定日までに銀行振込にてお支払いください。なお、遠隔による研修を受講する上で必要な環境の整備・通信費などは各自の負担となります。

## 7. 注意事項

本研修は、文化庁委託（日本語教育人材の研修プログラム普及事業 日本語教師【中堅】）を日本語教育学会が受託事業として実施するものです。研修期間に作成した資料、成果物、LMS でのやりとりなどが、他の研修生、講師、日本語教育学会が行う研修評価、研究活動等において利用・分析される場合があります。詳細は研修開始時に改めて説明し、意向を伺います。なお、記録のため、同期型研修の当日の様子を録画します。

## 8. 問い合わせ先

公益社団法人日本語教育学会 JCN研修事務局  
〒101-0065 東京都千代田区西神田 2-4-1 東方学会 2F  
Tel: 03-3262-4291 E-mail: [jcn\\_office@nkg.or.jp](mailto:jcn_office@nkg.or.jp)



文化庁委託「日本語教育人材の研修プログラム普及事業 日本語教師【中堅】」

公益財団法人日本語教育学会

「日本語教育学会の人材，知財，ネットワークを活かした

中堅日本語教師のための研修プログラム（略称：JCN 研修）：講師育成コース」

## 募 集 要 項

### I. 研修について

#### 1. 本研修の趣旨・目的

公益社団法人日本語教育学会は、2022年度文化庁事業「日本語教育人材の研修プログラム普及事業」を受託し、中堅日本語教師のための研修（以下、中堅研修コース）、及び研修担当講師の育成研修（以下、講師育成コース）を実施いたします。

「中堅研修コース」では、文化庁（2019）で示された日本語教育人材の養成・研修における「日本語教師【中堅】に求められる資質・能力」および「研修における教育内容」を踏まえた内容を提供します。その目的は、これまでに自らが行ってきた日本語教育実践を振り返り、俯瞰し、それらを理論的・メタ的に位置づける活動を通じて、これからの日本語教育の如何なる多様化にも対応し、日本語学習環境を整えることができる日本語教師【中堅】を育成することです。

「講師育成コース」では、文化庁（2019）で示された日本語教育人材の養成・研修における「日本語教育コーディネーターに求められる資質・能力」および「研修における教育内容」を踏まえた内容を提供します。その目的は、中堅日本語教師の研修を企画し、講師として研修を運営・実施できる人材を育成することです。

これら2つのコースは、日本語教育学会の様々な人材（Jinzai）、知財（Chizai）、ネットワーク（Network）を活用してオンラインで実施します。以下では、【講師育成コース】の募集要項を説明します。

### 【講師育成コース】

#### 2. 研修実施期間

令和4（2022）年7月1日（金）～令和5（2023）年2月15日（水）

#### 3. 実施方法

##### 3. 1. 遠隔による研修の実施

本研修は、全てオンラインで実施します。「同期型研修（Web 会議システムによるスクリーング）」と「非同期型研修（講義動画の視聴と LMS の利用）」を組み合わせた複合型の学習形態で

す。Web 会議システムには Zoom を用います。LMS (Learning Management System : 学習管理システム) には Slack を用います。

### 3. 2. 実施方法

受講者は、講義動画の視聴を通して必要な知識を得ることに加え、上記 1 の「中堅研修コース」(「中堅研修コース」募集要項を必ず参照のこと) にメンターとして主体的に参加することで(謝金対象)、実地でのスキル習得を目指します。研修を通して、日本語教師【中堅】の資質能力とは何であり、どう高めることができるのかを考えます。これらを踏まえ最終課題として、日本語教師【中堅】に対する研修企画案を作成、自身の講師育成の資質能力を高めます。

#### (1) 講義動画の視聴

講義動画を視聴することで、文化庁(2019)の「日本語教師【中堅】に求められる資質・能力」、「日本語教師【中堅】研修における教育内容」の具体について理解を深めます。

#### (2) 同期型研修／非同期型研修

「中堅研修コース」にメンターとして参加し、同コース受講者をサポートすることで、研修プログラムのデザインや進め方等を実践的に学びます。「同期型研修」(スクーリング)までに受講生が提出する課題へのフィードバックや「非同期型研修」(LMS を利用した受講者間での情報共有やディスカッション)へのメンターとしての参加から、現職教師に対するフィードバックの方法や、対話による省察の促し方を学びます。また、「中堅研修コース」における講義と演習の往還に接することにより、理論と実践のインターフェイスについて学びます。

#### (3) メンターセッション (MS)

研修期間中に計 9 回のメンターセッション(以下、MS)を行います。自身の研修企画案の検討、担当する「中堅研修コース」受講者のグループ(以下、チーム)の状況と課題をメンター間で共有し、担当講師のアドバイスを受けます。セッションは、いくつかのチームをまとめた班ごとに Zoom または Slack を用いて行います。MS では次のことを検討します。

- ① 中堅研修の企画および実施・運営案
- ② スクーリングのファシリテーション
- ③ 「中堅研修コース」受講者の課題とフィードバック
- ④ 「中堅研修コース」のメンターとしての振り返り

#### (4) 提出物

受講者は、研修期間を通じて次の 3 種類の成果物を提出します。

- ① 「振り返りシート」(MS 終了後、個人で提出)
- ② 「修了レポート」(研修終了時、個人で提出)
- ③ 「自己評価票」(研修期間中 3 回程度、個人で提出)

#### 4. 実施内容とスケジュール (31 単位 : 講義 5 単位+実習 26 単位, 1 単位=45 分)

##### 4. 1. 実施内容

###### (1) 講義 (5 単位)

オンデマンド学習として、「中堅研修コース」と同じ動画教材による講義(視聴)を行います。

###### (2) 演習 【オリエンテーション・事前/振り返り/メンターセッション・研修企画案発表会】(26 単位)

演習として、以下のセッションを行います。

###### ① 【講師育成コース】オリエンテーション/研修企画案発表会 (4 単位)

研修開始時に受講者全体でオンライン同時双方向のオリエンテーション (2 単位), 終了時に研修企画案発表会 (2 単位) を実施します。

###### ② 【中堅研修コース】に係る事前セッション/振り返りセッション (4 単位)

「中堅研修コース」開始前にメンターとしてのコースへの関わり方等を確認する事前セッション (2 単位), コース終了後には振り返りセッション (2 単位) を実施します。

###### ③ メンターセッション (MS) (18 単位)

「中堅研修コース」スクーリングの前後, メンターとしてチームの課題を担当講師と共有するとともに, 研修生として自身の立案した研修企画・運営案に関する演習を行います。

##### < 講師育成コースのスケジュール (めやす) >

時期	7月	8月前半	8月後半	9月	10月	11月	12月	1月
内容	オリエンテーション, 事前セッション, MS①②	講義演習 1 MS③	講義演習 2 MS④	講義演習 3 MS⑤	講義演習 4 MS⑥	講義演習 5 MS⑦	成果発表会参加	振り返りセッション, 研修企画案発表会, MS⑧⑨
提出物	振り返りシート 自己評価票	振り返りシート	振り返りシート	振り返りシート	振り返りシート 自己評価票	振り返りシート		振り返りシート 自己評価票 修了レポート

##### 4. 2. スケジュールおよび提出物

###### (1) スクーリング等の実施日程・提出物の締切

基本的に以下の全てに参加すること, 全ての提出物を期限内に提出することが求められます。

※網掛け部分は「中堅研修コース」の活動です。「講師育成コース」受講者はメンターとして参加します。

日程	スクーリング等
7月2日(土) 13:00-14:30 14:30-16:00	【講師育成コース】オリエンテーション(2単位) MS①(2単位)
7月30日(土) 13:00-14:30 14:30-16:00	【中堅研修コース】に係る事前セッション(2単位) MS②(2単位)
8月6日(土) 13:15-15:45 15:45-16:30(各班で決定)	スクーリング1 MS③(2単位)
8月27日(土) 13:00-16:30 16:30-17:15(各班で決定)	スクーリング2 MS④(2単位)
9月24日(土) 13:00-16:30 16:30-17:15(各班で決定)	スクーリング3 MS⑤(2単位)
10月15日(土) 13:00-16:30 16:30-17:15(各班で決定)	スクーリング4 MS⑥(2単位)
11月19日(土) 13:00-16:30 16:30-17:15(各班で決定)	スクーリング5 MS⑦(2単位)
12月25日(日) 13:00-16:30	【中堅研修コース】成果発表会
1月7日(土) 13:00-14:30 14:30-16:00	【中堅研修コース】振り返りセッション(2単位) MS⑧(2単位)
1月21日(日) 13:00-14:30 14:30-16:00	【講師育成コース】研修企画案発表会(2単位) MS⑨(2単位)
※提出物(期限) 【振り返りシート(各MS終了後に提出)】 (①7/10, ②8/5, ③8/14, ④9/4, ⑤10/2, ⑥10/23, ⑦11/27, ⑧1/15, ⑨1/29) 【修了レポート】(2/10) 【自己評価票】(研修の開始時・中間・終了時)(①7/10, ②10/23, ③2/10)	

(2) 講義動画の研修内容

	科目	内容(項目)	動画 本数
事前	研修について(1)~(2)	① コースガイダンス ② 研究倫理と著作権	2
講義1	日本語教育人材の育成/日本語教育 における中堅(1)~(3)	①日本語教育人材について ②日本語教育人材の育成 ③日本語教育における「中堅」	3

講義 2	日本語教師と「熟達」(1)～(3)	日本語教師と「熟達」	3
講義 3	「実践を記述する」ということ (1)～(3)	①「実践」を観察する ②「実践」を記述する ③「実践」を評価する	3
講義 4	課題解決のアプローチ (1)～(3)	課題を解決する	3
講義 5	「実践」を振り返る/ 異なる実践をつなげる・つながる	実践を振り返る	3

## 5. 担当講師

<講義担当講師（講義動画）>

石黒広昭(立教大学)，黒崎誠(ラボ日本語教育研修所)，小林ミナ(早稲田大学)，西原鈴子(特定非営利活動法人日本語教育研究所)，横溝紳一郎(西南学院大学)，義永美央子(大阪大学)

<講師育成コース担当講師>

小河原義朗(東北大学)，御館久里恵(鳥取大学)，金子史朗(友国際文化学院)，北出慶子(立命館大学)，久保田美子(早稲田大学)，黒崎誠(ラボ日本語教育研修所)，小林ミナ(早稲田大学)，嶋ちはる(国際教養大学)，嶋津百代(関西大学)，中島祥子(鹿児島大学)，永田良太(広島大学)，平山允子(日本学生支援機構東京日本語教育センター)，星摩美(福井ランゲージアカデミー)，安原凜(環太平洋大学)，柳田直美(一橋大学)，吉川達(佐賀大学)，義永美央子(大阪大学)

## II. 受講者の募集について

### 1. 募集人数

10名程度

### 2. 応募資格と応募条件

#### (1) 応募資格

・文化庁(2019)『[日本語教育人材の養成・研修の在り方について \(改定版\)](#)』，p.31「表 8」に記載されている「日本語教師【中堅】」としての専門性と経験を有する者。

・現在，または将来的に中堅日本語教師研修の講師等を務める可能性があり，日本語教育に貢献する意欲がある者。

・過去に中堅日本語教師研修を修了した者であることが望ましい。

※応募資格に関してご不明な点がある場合には「9. 問い合わせ先」にお問い合わせください。

#### (2) 応募条件

次の4つを全て満たすこと。

- ① Zoom によるスクーリングに出席できること。  
受講者は、「中堅研修コース」スクーリングとメンターセッションの全てに参加すること（事前に日程を確認すること）。
- ② Slack によるやりとりに参加できること。  
8 ヶ月間の研修期間を通じて、Slack による意見交換、情報収集、成果報告などを頻繁に行う。  
Slack でのやりとりに積極的に参加し、意見交換などを行うこと。
- ③ 同期型研修で使用する Zoom と非同期型研修で使用する Slack、Vimeo（動画視聴）、Google フォーム（自己評価票の提出）の利用環境を整えられること。
- ④ 母語、国籍は問わないが、日本語でのグループ活動、ディスカッション等の参加に支障がない程度の日本語力を有すること。

### 3. 修了判定

80%以上の出席率、80%以上の課題達成率（提出物は締切厳守）の両方を満たした場合に修了となります。修了判定の結果通知、および、修了証の送付は2月下旬を予定しています。

### 4. 応募方法

#### （1）参加申込

以下の URL にアクセスし、必要事項を記入してください。締切日までに複数の応募申請があった場合は、最新の日付のものを有効とします。

[https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSeP4Tg3--kPVquNAhi7Hiwj6cOabv0gU4XbGN\\_Rd97m6HIG3Q/viewform?usp=sf\\_link](https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSeP4Tg3--kPVquNAhi7Hiwj6cOabv0gU4XbGN_Rd97m6HIG3Q/viewform?usp=sf_link)

※ブラウザ上でURLにアクセスできない場合は、本PDFファイルをダウンロードしたうえでアクセス頂く必要がございます。

#### （2）事前課題

以下に示す4点について、ご自身の現在の考えを1,200字程度でまとめて、ファイルを上記のURLからアップロードしてください（申込に関する情報入力完了後にアップロードが可能になります）。ファイルはPDF形式で作成し、ファイル名を「JCN 育成事前課題\_（申込者のお名前）」としてください（例：「JCN 育成事前課題\_学会太郎」）。

### 事前課題

本研修は、中堅日本語教師の研修を企画し、講師として研修を運営・実施できる人材の育成を目的としています。そして、並行して行われる【中堅研修コース】にメンターとして主体的に参加することにより、研修の企画・運営に求められる知識とスキルを実地で身につけます。

本研修参加にあたっての事前課題として、以下の4点について、現在のご自身の考えを記してください。

- ① 日本語教師【中堅】に対して、どのような研修を企画したいと考えていますか。
- ② ①の企画を考えるに至ったご自身の経験および日本語教育の現状について説明してください。
- ③ ①の企画を実際に運営・実施するにあたって、今のご自身には何が足りないと考えていますか。
- ④ ご自身がメンターとして【中堅研修コース】に具体的にどのように関わろうと考えていますか、それによって上記の③はどのように学べると考えていますか。

上記4点についての現在のご自身の考えを記してください。合わせて1,200字程度（A4判1枚）でまとめてください。

応募締切：2022年5月31日（火）23：59（JST）

### 5. 選考

提出された書類を審査し、2022年6月21日（火）までに電子メールにて受講の可否を通知します。選考料は無料です。

### 6. 受講料

受講料は、一人10,000円（教材費を含む）。

受講が決定しましたらメールでご連絡いたしますので、指定日までに銀行振込にてお支払いください。なお、遠隔による研修を受講する上で必要な環境の整備・通信費などは各自の負担となります。

### 7. 注意事項

本研修は、文化庁委託（日本語教育人材の研修プログラム普及事業 日本語教師【中堅】）を

日本語教育学会が受託事業として実施するものです。研修期間に作成した資料、成果物、LMSでのやりとりなどが、他の研修生、講師、日本語教育学会が行う研修評価、研究活動等において利用・分析される場合があります。詳細は研修開始時に改めて説明し、意向を伺います。なお、記録のため、同期型研修の当日の様子を録画します。

## 8. 問い合わせ先

公益社団法人日本語教育学会 JCN研修事務局

〒101-0065 東京都千代田区西神田 2-4-1 東方学会 2F

Tel: 03-3262-4291 E-mail: jcn\_office@nkg.or.jp